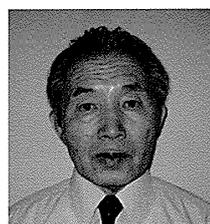


日本色彩学会誌

JOURNAL OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 37 NUMBER 1 2013



巻頭言 AIC2015に向けて、日本色彩学会の蓄積を発信していこう
- 会員のみならず賛助会員と手を携えて -

監事 嶋崎 裕志

私はいま、賛助会員検討委員会の一員として、学会を支える賛助会員が年ごとに減少していき学会の力を削いでいく現実を何とか食い止めたい、そして2015年に開催されるAIC2015に向けて、日本色彩学会がこれまで蓄積してきた成果を遺憾なく発揮していくことに賛助会員ともども学会全体が結集していく千載一遇のチャンスではないかと考えておりますので、そのことをこの巻頭言において会員の方々に知っていただきたく、執筆を依頼されたことにお応えしたいと考えます。

学会の日常活動において、諸企業から提供していただいている製品・技術により学会会員の諸研究と諸活動が支えられていますので、賛助会員から得られるこのような協力関係が強力であればあるほど学会活動も活発になります。

日本色彩学会は、現在正会員1515人、学生会員133人、賛助会員34法人、賛助会員(個人)2人、名誉会員33人で構成されています(2012年12月1日現在)。私が2年前に会長に就任したとき、賛助会員は43法人でしたので、2年間に約10団体の方々の退会を受けたことになり、会長として事の重大さの認識に欠けていたと思います。その罪滅ぼしのため、私も一員となって賛助会員検討委員会の成果ある活動に参画し、学会がそれを基軸に今後の新しい取り組みを展開していただき

たい所存です。

日本色彩学会は、色彩の基礎である基礎科学から色彩文化・芸術に広がる所謂実践・応用分野まで、幅広い領域をカバーしています。そこに流れている共通のものが色彩であり、サイエンス science であり、アート art と考えられます。その色彩のサイエンスを切り開いた巨人がニュートンであり、色彩のアートを切り開いた巨人がゲーテでありますから、このふたりの巨人を背景とする日本色彩学会の活動は将来に向けて、より一層のグレードアップを展開していくことが望まれているのではないのでしょうか。

2015年春には、AIC(国際色彩学会)中間会議、AIC2015(AIC twenty-fifteen)が東京で開催されます。この国際的学会では、アカデミックな活動というまでもなく、日本人が培ってきている色とデザインの蓄積(例えば、長年のあいだ世界が注目してきている江戸期のさまざまな伝統芸術)を海を越え広く世界に発信できます。日本独自の色彩関連の諸企業活動もこの機会に注目していただくことができます。個人会員のみならず賛助会員と手を携えて、日本色彩学会の蓄積をもってAIC2015実行委員会、理事会、学会事務局を中心に、学会全体が力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。